

第3部 基本計画

目標別計画

目標1 人をはぐくむまちづくり

【目標の基本方針】

子どもたちの健やかな成長は全ての住民の願いであり、安心して子どもを産み健やかに育てられる環境づくりは極めて重要です。

また、「まちづくりは人づくり」という視点に立ち、町の未来を担うたくましい人材を育成するために社会の変化に対応した教育環境の整備や継続的な支援が必要とされています。

町民それぞれが役割を認識し、様々な連携によって地域課題を解決していくことができるよう、支援や学びの場などの提供を通じて地域のつながりを育むことで、次代の担い手育成に取り組みます。

【人をはぐくむまちづくりに関連した「強み」「弱み」「機会」「脅威】

S

内部環境

—まちの強み—

- ◎6 日本海・ニセコ連峰に囲まれた自然豊かな地域
- ◎9 キャンプ場や温泉、スキー場など、四季折々のレジャーに対応した施設の存在
- ◎22 施設一体型義務教育学校の実現に向けた検討
- ◎23 管内随一の設備を誇る文化センターの存在
- ◎24 子育てサークル等のネットワークが確立している
- ◎25 新保育所・地域子育て支援センターの整備促進
- ◎26 母子健康包括支援センターの開設
- ◎27 コミュニティスクールの推進
- ◎28 岩宇子ども交流プログラム事業の実施
- ◎29 岩宇イングリッシュアドベンチャー事業の実施

W

内部環境

—まちの弱み—

- ▼16 保育所や小中学校の老朽化の進行
- ▼17 子どもが快適・安全に遊べる施設がない
- ▼19 子どもの一時預かり施設等が少ない
- ▼20 産婦人科がなく、他市町への通院が必要

O

外部環境

—機会（チャンス、追い風）—

- ☆25 GIGA スクール構想の早期実現
- ☆26 子ども子育て支援法の制定
- ☆27 特色ある学校づくりに対する期待
- ☆28 学習活動における人工知能などの技術革新やグローバル化の進展

T

外部環境

—脅威（ピンチ、逆風）—

- 1 人口減少社会の到来と少子高齢化の進行
- 2 若者世代の都市圏への人口流出
- 26 出生率の低下
- 27 子育てに対する不安感や負担感の増大
- 28 子どもの基礎的運動能力や集中力、思考力の低下
- 30 人間関係の希薄化



【SWOT分析に基づく人をはぐくむまちづくりの戦略の方向性】

【成長戦略】（◎強み×☆機会）
強みによって機会をさらに活かす方策

【◎22・27×☆25・27・28】
①学校教育の充実

【改善戦略】（▼弱み×☆機会）
機会を逃さぬよう弱みを改善する方策

【▼20×☆26】
①出会い・結婚・出産しやすい環境づくり

【差別化戦略】（◎強み×●脅威）
強みによって脅威に対抗する方策

【◎22・24・25・26×●26・27】
①子育て支援の充実

【◎6・9・23・28・29×●1・2・30】
②生涯学習の推進・高等教育機関との連携、充実

【◎6・9・27×●28】
③健やかな育ちへの支援

【回避戦略】（▼弱み×●脅威）
弱みと脅威が重なる最悪の事態を回避する方策

【▼16・17・19×●1・26・27】
①幼児教育・保育の充実

目標2

生涯活躍するまちづくり

【目標の基本方針】

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられること、生涯にわたり健康で暮らし続けられることが、町民の願いです。

将来にわたり持続可能な地域づくりと地域活力の維持・向上を図り、全ての町民が安心して生活することを旨とするため、地域住民が抱える様々な健康上の不安と悩みに関して適切な対応を行うとともに、地域医療活動の充実や健康でアクティブな生活を送ることができるまちを目指します。

これらとともに、医療、介護、福祉などの各種社会保障制度については、国や北海道の動向を見ながら、その充実に努めていきます。

【生涯活躍するまちづくりに関連した「強み」「弱み」「機会」「脅威】

S

内部環境

—まちの強み—

- ◎16 岩宇4町村の基幹病院となる岩内協会病院の存在
- ◎17 健康サークルの活動が継続的に行われている
- ◎18 新庁舎建設に伴う保健センターの開設
- ◎19 地域包括支援センターの開設
- ◎20 あげぼの福祉会における各種事業の展開
- ◎21 社会福祉協議会等との連携・協力体制が確立
- ◎37 助け合い意識の高さ

W

内部環境

—まちの弱み—

- ▼10 高齢化率の上昇
- ▼11 町唯一の基幹病院における医師不足
- ▼12 専門医の不足や地域連携が進んでいない
- ▼13 救急・高度医療体制の課題
- ▼14 医療保険税（料）の収納率の低さ
- ▼15 低所得者世帯率が管内数値よりも高い

O

外部環境

—機会（チャンス、追い風）—

- ☆22 健康志向の高まり（ウォーキング、健康サークル）
- ☆23 医療・介護への注目の高まり
- ☆24 元気な高齢者の増加

T

外部環境

—脅威（ピンチ、逆風）—

- 19 生産年齢人口減少の加速
- 20 超高齢化社会の到来
- 21 団塊の世代の後期高齢者年齢への到達
- 22 高齢者の一人暮らしや老老世帯割合が増加傾向
- 23 地域内の家族介護力の低下
- 24 国家財政への不安
- 25 社会保障費の増大
- 30 人間関係の希薄化
- 31 無関心層の増加

【SWOT分析に基づく生涯活躍するまちづくりの戦略の方向性】

【成長戦略】（◎強み×☆機会）
強みによって機会をさらに活かす方策

- 【◎16・17・18×☆22・24】
①健康づくりの推進

【改善戦略】（▼弱み×☆機会）
機会を逃さぬよう弱みを改善する方策

- 【▼11・12・13×☆23】
①地域医療・救急医療体制の充実

【差別化戦略】（◎強み×●脅威）
強みによって脅威に対抗する方策

- 【◎19×●20・21・22・23】
①高齢者福祉の充実に向けた地域包括ケアシステムの確立
- 【◎20×●30・31】
②障がい者（児）福祉の充実
- 【◎21・37×●22・30】
③地域福祉の充実

【回避戦略】（▼弱み×●脅威）
弱みと脅威が重なる最悪の事態を回避する方策

- 【▼10・14×●24・25】
①公的医療保険の安定運営
- 【▼15×●19・25】
②低所得者福祉の充実

目標3

活気あふれるまちづくり

【目標の基本方針】

北海道新幹線の札幌延伸、高規格幹線道路の余市・倶知安間の整備などの交通インフラの利便性向上に加え、恵まれた自然を生かしたリゾート開発といった生かすべきチャンスが本町に到来しています。

こうした環境の変化を的確に捉え、魅力ある町として維持・発展させるためには、地域の価値を磨き上げ経済的視点に立った「稼ぐ力」の養成が最優先課題です。

食と観光が一体となった魅力ある産業の展開を目指し、地場産業の活性化を継続して遂行するとともに、新たな産業の創出・育成を推進していくなど、産業の総合力を全体的に高めていきます。

【活気あふれるまちづくりに関連した「強み」「弱み」「機会」「脅威】

S

内部環境

—まちの強み—

- ◎1 ニセコ積丹小樽国定公園に指定されている
- ◎2 高速道路「北海道横断自動車道」の延伸整備によるアクセス向上
- ◎3 北海道新幹線（新函館北斗ー札幌間）の開業によるアクセス向上
- ◎6 日本海・ニセコ連峰に囲まれた自然豊かな地域
- ◎9 キャンプ場や温泉、スキー場など、四季折々のレジャーに対応した施設の存在
- ◎10 岩内ならではの特産品が多くある
- ◎11 岩内海洋深層水事業の取組の推進
- ◎12 36ホールに増設されたパークゴルフ場の存在
- ◎13 IWANAI RESORT 開発計画の推進
- ◎14 円山展望台からの夜景が日本夜景遺産に認定
- ◎15 DMO 組織の形成に向けた取組が進む
- ◎32 アスパラガス発祥の地
- ◎33 野生ホップ発見の地
- ◎34 北海道における水力発電発祥の地

W

内部環境

—まちの弱み—

- ▼5 道の駅に対する住民満足度の低さ
- ▼6 住居一体型の空き店舗が多く、店舗の承継が難しい
- ▼7 一次産業の担い手が不足している
- ▼8 目当てとなる観光スポットがなく、豊富な観光資源を生かし切れていない
- ▼9 就職先の選択肢が少ない
- ▼29 町内外への情報発信力の低さ
- ▼30 町民を巻き込んだ政策推進ができていない

O

外部環境

—機会（チャンス、追い風）—

- ☆1 高速道路「北海道横断自動車道」の延伸整備
- ☆2 北海道新幹線（新函館北斗ー札幌間）の開業
- ☆5 Society5.0の到来（5G・ICT技術の進展）
- ☆8 価値観の変化、ミレニアル世代の台頭
- ☆10 情報化社会の進展と情報通信技術の進歩
- ☆16 2030 冬季札幌オリンピックの誘致
- ☆18 アドベンチャートラベルワールドサミット 2021 の開催
- ☆19 外国人観光客の増加
- ☆20 知的好奇心を満たそうとする観光が増加傾向
- ☆21 ニセコ・倶知安地域でのリゾート開発の活発化

T

外部環境

—脅威（ピンチ、逆風）—

- 5 新型コロナウイルス感染拡大の長期化
- 6 地球温暖化による自然災害リスクの増大
- 7 異常気象の恒常化
- 8 世界的食糧危機リスクの増大
- 11 地域経済の衰え
- 12 地方の雇用の受け皿と若者ニーズのミスマッチ
- 14 中小企業における事業承継問題
- 15 日本海沿岸における水産資源量の枯渇
- 18 企業立地の主流がグローバル化による海外進出へ



【SWOT分析に基づく活気あふれるまちづくりの戦略の方向性】

【成長戦略】（◎強み×☆機会）

強みによって機会をさらに活かす方策

【◎1・2・3・6・9・10・11・12・14・32・33・34 ×

☆16・18・19・20・21】

①地域資源を生かした観光地域づくり

【◎13・15×☆1・2・21】

②観光地経営による推進体制の確立

【改善戦略】（▼弱み×☆機会）

機会を逃さぬよう弱みを改善する方策

【▼29×☆5・8・10】

①情報発信の強化

【差別化戦略】（◎強み×●脅威）

強みによって脅威に対抗する方策

【◎10・11×●5・6・7・15】

①水産業の振興

【回避戦略】（▼弱み×●脅威）

弱みと脅威が重なる最悪の事態を回避する方策

【▼7×●5・6・7・8】

① 農業の振興

【▼5・6・8・30×●11・14・18】

② 商工業の振興

【▼7・9×●11・12・14】

③労働者・雇用対策の充実

目標4 持続可能なまちづくり

【目標の基本方針】

近年、地球温暖化の影響と言われている台風、大雨などの自然災害が想定を超えるような猛威をふるい、全国各地で甚大な被害が発生しています。

災害から町民の生命と財産を守るため、必要な道路・河川・下水道などの整備や、水道施設などの老朽化した社会インフラの計画的な更新、修繕を進めるとともに、地域における防災体制の充実を図ります。

また、岩内らしい景観資源を具体的に見だし、持続的な都市空間形成の整備を行っていくとともに、健康で安全な生活ができる地域社会、自然環境と生活環境が調和した町づくりを目指します。

【持続可能なまちづくりに関連した「強み」「弱み」「機会」「脅威】

S

内部環境

—まちの強み—

- ◎ 4 大きな災害や犯罪が少なく、安全な地域
- ◎ 5 いわない循環バスソッタラインの運行開始
- ◎ 6 日本海・ニセコ連峰に囲まれた自然豊かな地域
- ◎ 7 円山地域乗合タクシーの運行開始
- ◎ 8 岩内地方清掃センターの完成
- ◎ 9 キャンプ場や温泉、スキー場など、四季折々のレジャーに対応した施設の存在
- ◎ 14 円山展望台からの夜景が日本夜景遺産に認定
- ◎ 34 北海道における水力発電発祥の地

W

内部環境

—まちの弱み—

- ▼ 1 北西の季節風による暴風雪
- ▼ 2 下水道普及率が低い
- ▼ 3 人口減少に伴う給水量の減少
- ▼ 4 人口減少に伴う空き家の増加
- ▼ 29 町内外への情報発信力の低さ
- ▼ 31 公共施設の老朽化対策

O

外部環境

—機会（チャンス、追い風）—

- ☆ 4 エネルギーミックスの確実な実現
- ☆ 5 Society5.0の到来（5G・ICT技術の進展）
- ☆ 6 循環型社会、再生可能エネルギーへの関心の高まり
- ☆ 7 新しい生活様式の定着
- ☆ 9 節電、節水など、環境に配慮した生活様式の定着
- ☆ 10 情報化社会の進展と情報通信技術の進歩
- ☆ 11 地域の自然や景観の保全に対する関心の高まり
- ☆ 12 安全・安心に対する意識の高まり
- ☆ 14 再生可能エネルギーの主力電源化に向けた取組
- ☆ 15 岩宇・南後志地区洋上風力発電導入推進協議会の発足

T

外部環境

—脅威（ピンチ、逆風）—

- 1 人口減少社会の到来と少子高齢化の進行
- 3 北海道特有の寒冷地のハンディキャップ
- 7 異常気象の恒常化
- 9 少子高齢化や核家族化に伴う社会環境の変化
- 10 交通弱者の増加と自家用車への依存
- 13 社会資本インフラ更新対策
- 17 リゾート開発に伴う景観を無視した乱開発
- 22 高齢者の一人暮らしや老老世帯割合が増加傾向
- 30 人間関係の希薄化
- 31 無関心層の増加
- 32 核家族化と高齢者単身世帯や老老世帯の増加
- 33 公共事業に必要な国の補助金の削減
- 34 資材高騰による公共事業の建設コストの上昇



【SWOT分析に基づく持続可能なまちづくりの戦略の方向性】

【成長戦略】（◎強み×☆機会）

強みによって機会をさらに活かす方策

【◎6×☆9・11】

①環境を守り継承する地域社会の形成

【◎8×☆6・12】

②循環型社会形成の推進

【◎34×☆4・14・15】

③再生可能エネルギーの推進

【◎4×☆12】

④防災・減災対策の強化

⑤消防力の強化

⑥防犯対策の強化

⑦交通安全対策の強化

【改善戦略】（▼弱み×☆機会）

機会を逃さぬよう弱みを改善する方策

【▼4×☆5・7・10】

①都市機能の整備

【▼31×☆11・12】

②道路ネットワークの整備

【▼2・31×☆11】

③生活排水対策等の推進

【▼1・31×☆6・14・15】

④港湾・海岸堤防の整備

【差別化戦略】（◎強み×●脅威）

強みによって脅威に対抗する方策

【◎5・7×●1・10】

①公共交通の充実

【◎6・9・14×●17】

②良好な景観の形成

【◎4×●3】

③災害に強いまちづくりの推進

【◎6×●7】

④緑化の推進と公園緑地の整備

【回避戦略】（▼弱み×●脅威）

弱みと脅威が重なる最悪の事態を回避する方策

【▼3・31×●1・33・34】

①安全な水の安定供給

【▼31×●3・13・33・34】

②生活道路の整備

【▼4・31×●1・22・33・34】

③居住環境の整備

【▼31×●1・9・31・32】

④霊苑・墓地管理の適正化

【▼29×●30・32】

⑤消費者保護の強化

目標 5 魅力あふれるまちづくり

【目標の基本方針】

時代が大きく変化し、定住人口だけでは地域の活性化を図ることが難しくなっている中、地域や地域の人たちと多様に関わる「関係人口」に着目し、地域外からの交流の人口をいかに増やしていくかが重要となっています。地域のブランド力の強化とともに、関係人口を拡大することで、まちの効果的なプロモーションを進めます。

また、魅力あふれるまちづくりを目指すためには、まずは、地域の人々の関心や愛着を高めることが重要です。スポーツや歴史文化、地域コミュニティの活性化、さらには、暮らしやすい社会の実現を通じて、町民が住みやすいまちづくりを目指します。

【魅力あふれるまちづくりに関連した「強み」「弱み」「機会」「脅威】

S

内部環境

—まちの強み—

- ◎ 6 日本海・ニセコ連峰に囲まれた自然豊かな地域
- ◎ 9 キャンプ場や温泉、スキー場など、四季折々のレジャーに対応した施設が存在
- ◎ 10 岩内ならではの特産品が多くある
- ◎ 11 岩内海洋深層水事業の取組の推進
- ◎ 13 IWANAI RESORT 開発計画の推進
- ◎ 29 岩宇イングリッシュアドベンチャー事業の実施
- ◎ 30 木田金次郎美術館の存在
- ◎ 31 文化サークルの活動が継続的に行われている
- ◎ 32 アスバラガス発祥の地
- ◎ 33 野生ホップ発見の地
- ◎ 34 北海道における水力発電発祥の地
- ◎ 35 町内会自治会あり方検討会の実施
- ◎ 36 世代別での地域活動の活発化
- ◎ 38 町内会活動を通じて、連絡体制が構築されている
- ◎ 39 地域おこし協力隊の任用
- ◎ 40 都市部に比べて、住民と行政の距離が近い

W

内部環境

—まちの弱み—

- ▼ 9 就職先の選択肢が少ない
- ▼ 18 世代問わずに利用できる運動施設がない
- ▼ 26 よそ者を警戒する風土（えんかま根性）
- ▼ 27 町内会加入者の高齢化と後継者不足
- ▼ 28 地域活動への参加者の固定化
- ▼ 29 町内外への情報発信力の低さ
- ▼ 30 町民を巻き込んだ政策推進ができていない
- ▼ 31 公共施設の老朽化対策

O

外部環境

—機会（チャンス、追い風）—

- ☆ 3 男女共同参画社会の推進
- ☆ 7 新しい生活様式の定着
- ☆ 10 情報化社会の進展と情報通信技術の進歩
- ☆ 13 ユニバーサルデザインへの注目の高まり
- ☆ 17 リモートワーク・テレワークの推進
- ☆ 22 健康志向の高まり（ウォーキング、健康サークル）
- ☆ 24 元気な高齢者の増加
- ☆ 29 地域の歴史文化を通じた郷土意識の高まり
- ☆ 30 地域おこし協力隊の任用による機運の醸成
- ☆ 31 地方創生の取組に対する支援策の充実

T

外部環境

—脅威（ピンチ、逆風）—

- 4 人権・平和に対する意識の低下
- 11 地域経済の衰え
- 12 地方の雇用の受け皿と若者ニーズのミスマッチ
- 16 新型コロナウイルス感染症対策に伴うインバウンドの減少
- 29 歴史・文化の担い手の減少
- 30 人間関係の希薄化
- 31 無関心層の増加
- 32 核家族化と高齢者単身世帯や老老世帯の増加



【SWOT分析に基づく魅力あふれるまちづくりの戦略の方向性】

【成長戦略】（◎強み×☆機会）

強みによって機会をさらに活かす方策

【◎6・9・10・11×☆29・30】

①関係人口の創出と拡大

【◎39×☆30・31】

②地域おこし協力隊の誘致

【改善戦略】（▼弱み×☆機会）

機会を逃さぬよう弱みを改善する方策

【▼29×☆10・31】

①ふるさと納税の推進

【▼9・26・29×☆7・10・17】

②移住定住の促進

【▼18×☆22・24】

③スポーツ・レクリエーションの振興

【▼9×☆3】

④男女共同参画の推進

【▼18・31×☆13・22・24】

⑤ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

【差別化戦略】（◎強み×●脅威）

強みによって脅威に対抗する方策

【◎30・31・32・33・34×●29】

①歴史・文化の振興

【◎35・36・38・39・40×●30・31・32】

②地域コミュニティの活性化

【◎13・29×●11・12・16】

③国際・国内交流と多文化共生の推進

【回避戦略】（◎弱み×●脅威）

弱みと脅威が重なる最悪の事態を回避する方策

【▼28・29・30×●30・31・32】

②市民活動の推進

【▼30×●4】

②人権・平和施策の推進